

リカレント教育の実践について

2023.12.8

リカレント教育プラットフォームみえ セミナー

HRI 株式会社百五総合研究所
Hyakugo Research Institute

企業が「学びなおし」を考える必要性① –社会環境の変化

私たちを取り巻く社会の変化

技術の急速な変化

- 現代社会は情報化社会とも言われ、技術や知識が急速に進化している。これに適応しないままでは、業務の効率や質が低下し、競争力が失われる恐れがある。

地域社会の質の向上

- 地方公共団体は、地域社会のリーダーとしての役割を持っている。そのため、最新の情報や技術、手法を学び、地域社会へのサービスの質を向上させることが求められる。

労働力不足と高齢化

- 少子高齢化の進展により、労働力が不足している。経験豊富な高齢者が活躍し続けるためには、新しい技術や知識の習得が必要となる

組織の柔軟性強化

- 環境の変化に対応するためには、組織自体が柔軟である必要がある。従業員一人一人が新しい知識やスキルを持つことで、組織全体の適応力を向上させる必要がある。

従業員のモチベーションアップ

- 新しいことを学ぶことは、従業員の自己成長やキャリアアップに繋がる。これは、従業員のモチベーションを向上させ、組織へのコミットメントを高める要因となる。

職の多様化

- キャリアの多様化や転職の増加、業務内容の変更など、働き方や職種が変化している。この変化に対応するためには、継続的な学びが必要となる。

技術革新やサステナビリティ等に対応するための人材・能力のアップデートが必要！

企業が「学びなおし」を考える必要性② –VUCAの時代

- ビジネス環境の変化は、さらに早く・予測不可能なものになっている

Volatility … 変動性

Uncertainly … 不確実性

Complexity … 複雑性

Ambiguity … 曖昧性



予測難しい社会環境の変化時代に対応するために、

- ベースとなる社会に合わせた人材・能力のアップデート
- 変化・変革への適応能力が高い人材を育てる

社会環境の予測困難な変化に対応するための人材・能力のアップデートが必要！

3

様々な「学びなおし」の概念

■ リカレント教育

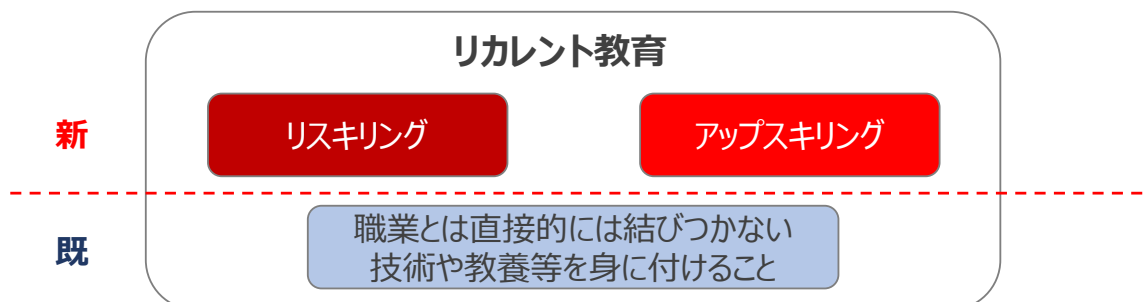
「社会変化への対応や自己実現を図るための …(中略)… 社会人の学びなおし」

■ リスキリング

「時代のニーズに即して職業上新たに求められる能力・スキルを身に付けること」

■ アップスキリング

「現在の職務を遂行する上で求められる能力・スキルを追加的に身に付けること」



(出所) 文部科学省 (2023)、「大学等におけるリカレント教育の持続可能な運営モデルの開発・実施に向けたガイドライン」より当社作成

社会の変化や時代のニーズに即した対応を行うための「学び直し」が必要！

4

【ご参考】「学びなおし」の概念（詳細）

学びの種類

新

【企業】 帰属組織への貢献

- ・競争力の維持・向上
- ・従業員のモチベーションと組織へのコミットメント
- ・人材確保と定着
- ・組織の柔軟性と適応力

【地方公共団体】 帰属組織への貢献

- ・地域社会へのサービスの質向上
- ・社会的責任の遂行
- ・職員のモチベーションとキャリアアップ
- ・組織の柔軟性と適応力

【自身】 転職・ステージアップ

- ・専門スキルの習得・向上
- ・資格・認定の取得
- ・業界知識の深化
- ・ネットワーキングの機会
- ・面接・職務経歴書の対策
- ・自己分析・キャリアプランニング

既

【自身】 社会復帰の準備

- ・職業能力の再獲得・向上
- ・生活スキルの獲得
- ・社会とのつながりの再構築。
- ・自己認識・自己肯定感の強化

【シニア】 セカンドライフの充実

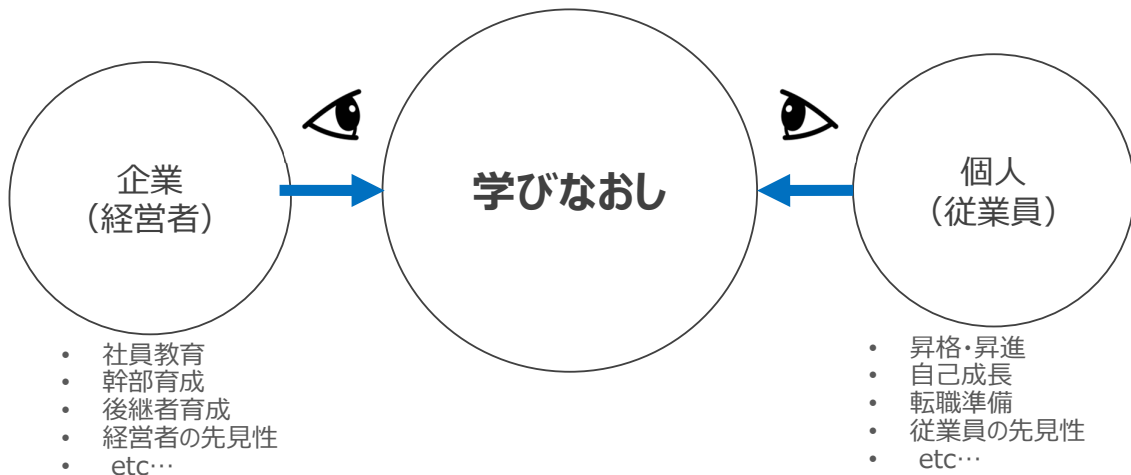
- ・自身の趣味やスキルの探求
- ・知識の拡充
- ・健康・フィットネスの維持・向上
- ・地域や社会とのつながり
- ・デジタルリテラシーの向上
- ・旅行や冒険のサポート

【その他】

フリーランス、独立起業家、再進学を希望する者、文化・アート愛好者、スポーツ・フィットネス愛好者、特定の資格認定を目指す者、国際的な活動や留学を希望する者、テクノロジー愛好者、環境・社会活動家 など

立場に応じた「学びなおし」の捉え方

- 立場によって、学びなおしの捉え方も異なるため、整理が必要。



立場に応じた「学びなおし」の捉え方

○企業（経営者）からの視点・・・送り手

－ポイント：学び直しは、企業・自治体など、
組織運営にどのようなメリットがあるのか

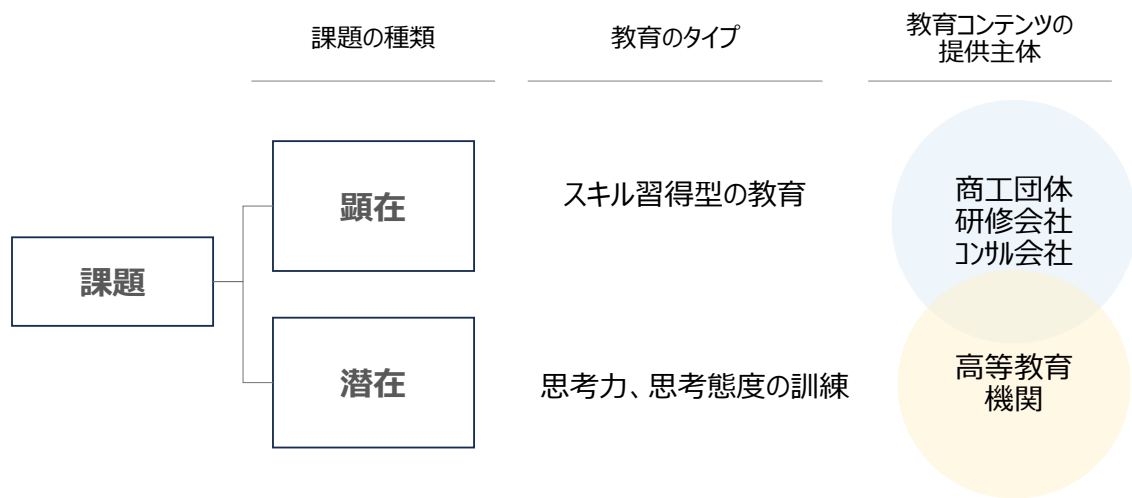
○個人（従業員）からの視点・・・行き手

－ポイント：個人の問題意識と、
会社の問題意識をどうすり合わせるか

7

企業（経営者）からの視点・・・送り手

■ ポイント：学び直しは、企業の経営にどのようなメリットがあるのか



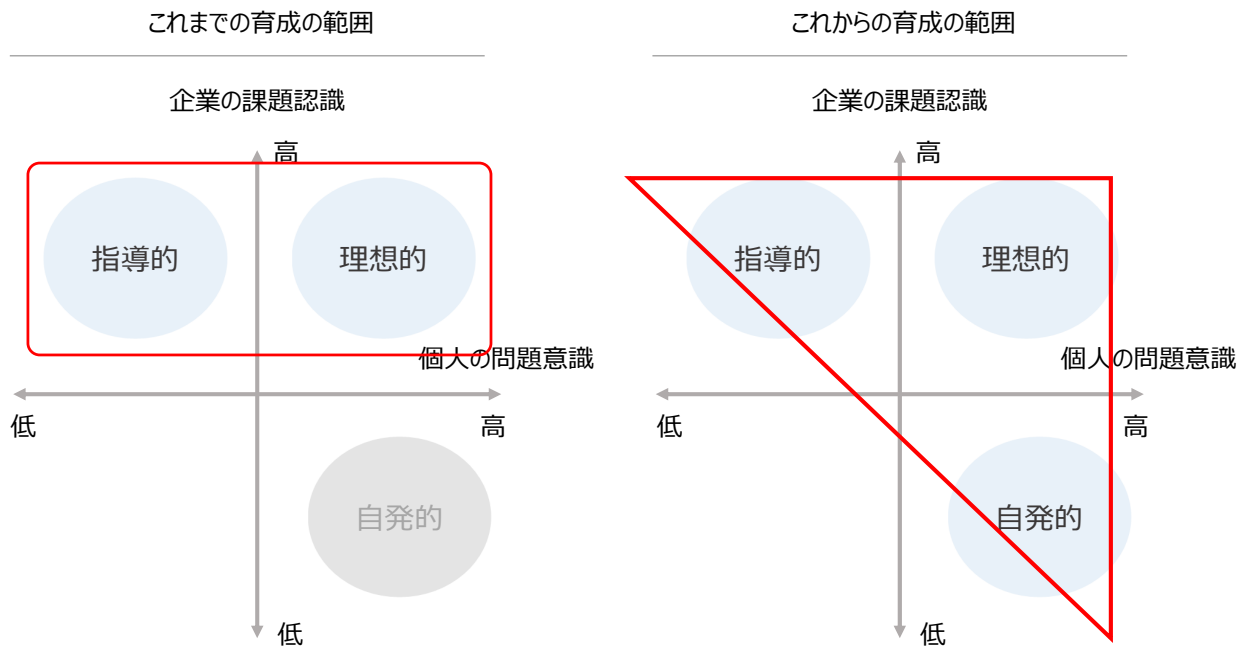
- ・ これまで：「解決すべき課題が明確な問題」にスキルを処方することで成果が得られた
- ・ これから：「解くべき問題そのもの」を自ら定義していく視点が求められる
→「潜在的な課題」に立ち向かう思考力・思考態度の重要性が増す

学ぶべきことは、目先の課題解決のためだけでなく、自社の未来を見据えた中にもある！

8

個人（従業員）からの視点・・・行き手

- ポイント：個人の問題意識と、会社の問題意識をどうすり合わせるか



学ぶべきことは、企業任せだけでなく、個人の問題意識の中にもある！

教育コンテンツの提供者からの視点・・・受け手

- ポイント：提供主体によって、得意/不得意な領域がある

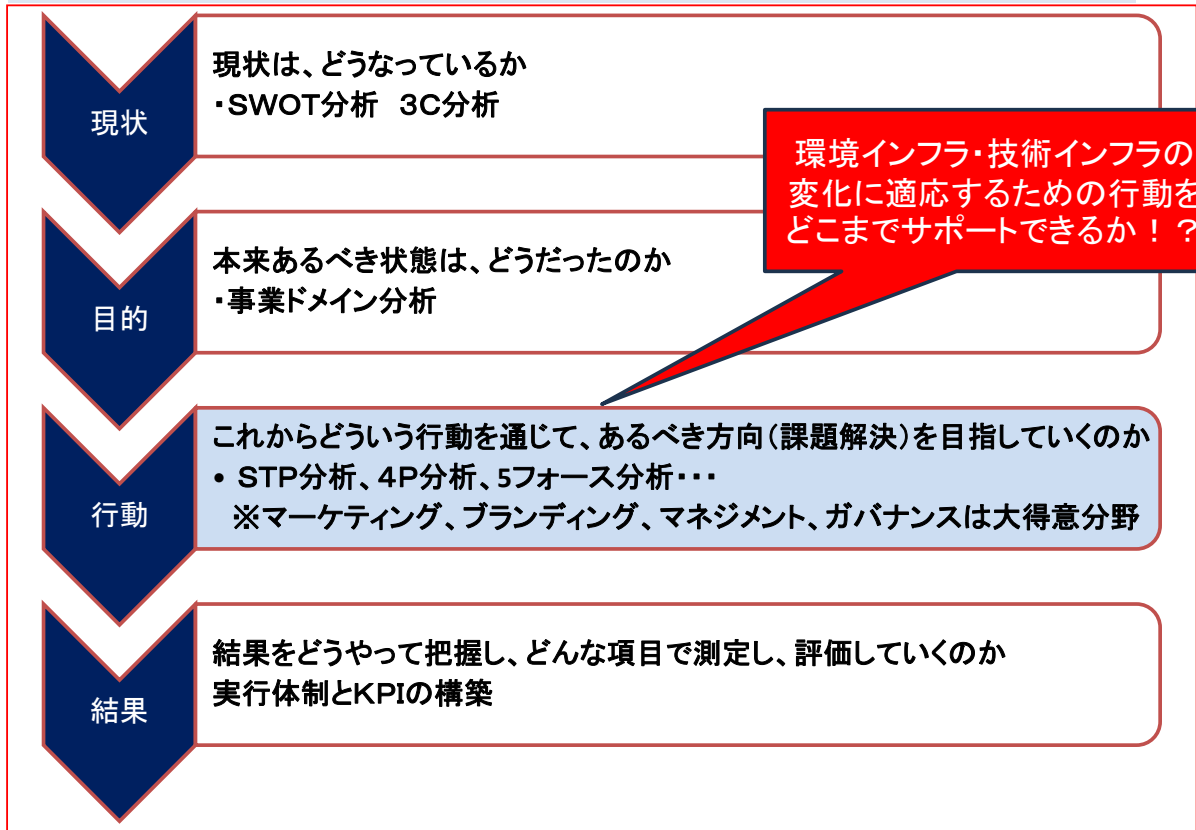
時間軸の種類	経営の視座	教育のタイプ	教育コンテンツの提供主体
短期	近視眼的な局所的視座	すぐに役立つ ビジネス直結型スキルの獲得	商工団体 研修会社 コンサル会社 高等教育 機関
中期	中期的な経営方針	体系的な知識体系の習得	
長期	未来志向の大局的視座	本質的な思考力・研究力	

- これまで：ビジネス成果の即効性が高い、「短期」「中期」の学びに偏重
- これから：予測不可能な状況下では、「何が有効か」ということすら予測困難
→本質的な思考力を育むタイプの学びの重要性が増す

中長期の視点で体系的に学ぶべきことの重要性が増している！

【ご参考】コンサル会社による課題解決

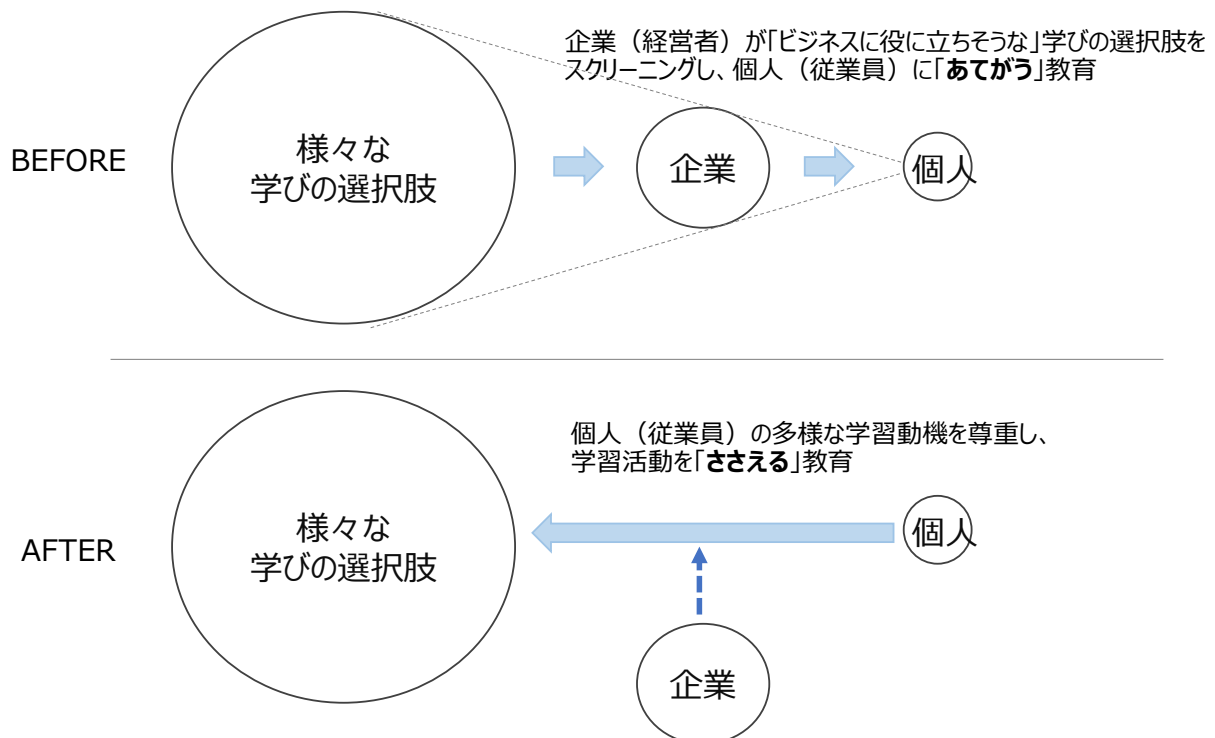
コンサル（シンクタンク）による課題解決のためのフレームワーク



11

「学びなおし」への企業の関わり方

■ 「あてがう教育」から「ささえる教育」へ



「あてがう」学びと「ささえる」学びで相乗効果をあげる時代！

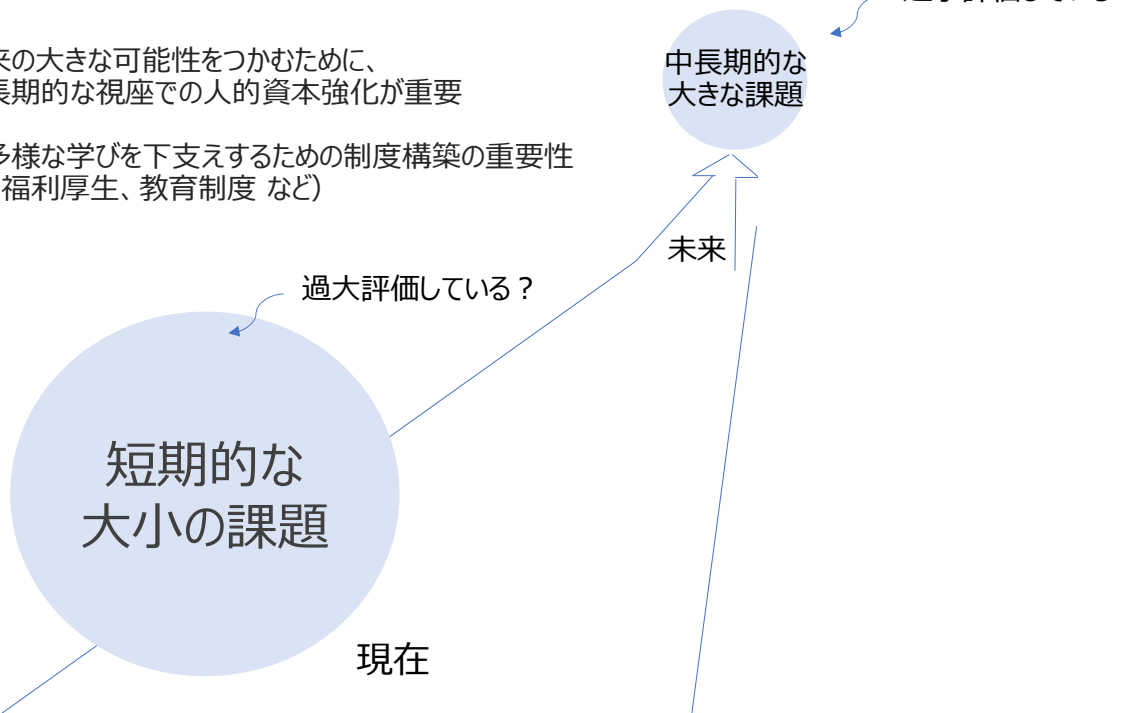
12

おわりに

- 「中長期的な可能性」を過小評価していませんかー

将来の大きな可能性をつかむために、
中長期的な視座での人的資本強化が重要

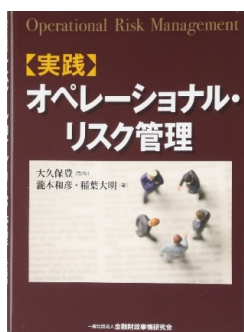
→多様な学びを下支えするための制度構築の重要性
(福利厚生、教育制度 など)



中長期的な視野に立った人的資本経営が必要な時代！

13

HRI 株式会社百五総合研究所
Hyakugo Research Institute



百五総合研究所 理事 主席研究員

兼 コンサルティング事業部 統括部長 瀧本和彦

三重大学 社会連携特任教授 兼 みえの未来図共創機構産学官連携アドバイザー
慶應義塾大学大学院 法務研究科 非常勤講師(リスクマネジメント論)
鈴鹿工業高等専門学校 客員教授(グローバルリーダー論)(経営学)